大河原

土地改良区が総代研修会

茅野市の大河原堰を管理、運用する大河原堰土地改良区（松田一雄理事長）は1日、総代研修会を玉川地区コミュニティセンターで開いた。約50人が参加。大河原堰をはじめとした地域の治水を研究しているNPO地域学習支援センターの関雅一代表と土地改良区の白鳥保美理事の解説を聞き、大河原堰の歴史と役割について再確認した。

大河原堰は江戸時代に八ケ岳山麓の治水に尽力した茅野市出身の坂本養川（1736―1809）によって1792年につくられ、2016年には世界かんがい施設遺産に選ばれた。養川の造成した八ケ岳山麓の堰の数々は小学3、4年生の教科書にも採り上げられている。

講師を務めた関さんと白鳥さんはいずれも、土木機械のない230年前に行われた大規模な工事を実現させた先人の偉業とともに、維持管理し続けている現代の土地改良区の苦労も子どもたちに伝えなければならない―と口をそろえた。

大河原堰の歴史と役割について学んだ土地改良区の研修会

いての展示を見学した。